

# 委員会調査報告書

南幌町子ども室内遊戯施設「はれっぱ」に関する先進地事務調査について  
令和7年1月28日に当委員会が実施した標記に関する調査結果を、芽室町議会会議  
議条例第79条の規定により報告する。

令和7年3月24日

芽室町議会新嵐山スカイパーク経営改革調査特別委員会  
委員長 鈴木 健 充

芽室町議会議長 梶 澤 幸 治 様

## 1 調査訪問先及び調査項目

調査視察日程 令和7年1月28日（火）13時30分～14時30分

訪問先 南幌町

調査項目 南幌町子ども室内遊戯施設「はれっば」に関する調査

## 2 調査目的

町が新嵐山スカイパークにおける「新たな土地利用」の中で「拠点機能」として構想を示した「屋内遊戯施設」について、優良事例を実践している南幌町の取組を学び、今後の調査・研究につなげることを目的とする。

## 3 調査方法

今回の調査は、南幌町に調査項目を事前に提示の上、訪問当日に関係資料の配付及び概要説明を受け、質疑を行った。

また、視察後は、各委員から出された調査視察報告を踏まえ、委員会で事後調査を行い、論点化を進めたものである。

## 4 訪問先の概要

南幌町は北海道の中央部よりやや西南端の石狩平野に位置し、昭和37年5月1日「幌向村」から「南幌町」と呼び名が改められ、村から町となった。

札幌市から25km圏内の近さにあり、この近さを最大限に生かし、道路網の整備や生活・文化・教育等快適な生活環境を供給する住宅供給都市としての開発が進められ、豊かな自然に恵まれた快適な生活都市として多くの永住希望者が転入している。

人口は、7,932人、3,758世帯（令和6年12月末日現在）である。

## 5 調査結果の概要

### （1）事業実施の経緯

2018年に北広島市に日本ハムファイターズ北海道ボールパークの建設が決定し、新千歳空港から石狩湾新港を結ぶ「道央圏連絡道路」のうち、南幌町市街地に近い道路の一部開通に伴い、人の流れが変わりつつある中、地域課題の解決に向けた施設整備のための検討委員会が立ち上がり、保護者の声を反映した子供たちが安心して遊べる環境を求める施設が検討された。

南幌町の知名度向上と移住促進を目的に、市街地に集客を図るため、中央公園内に施設を設置する計画が進められ、従来の事業手法では課題解決が難しいため、

民間企業との連携を模索し、地域住民と一体となったエリアマネジメントを行うことで高いサービスを提供する「DBO方式」を採用した。

## (2) 現状

令和5年5月の開業から累計で約34万人を超える入館者数（令和7年1月26日時点）となり、平日は町内の子どもたちが多く、休日は町外の利用者が多い傾向があり、利用者の約9割が町外からでリピーターの割合も約7割と高い状況である。

## (3) 課題

冬期間の利用者増が課題である。

## (4) 成果

民間企業との連携により地域住民と一体となったエリアマネジメントを行うことで、より質の高いサービス提供（自主事業によるカフェ設置やミニ書店オープン）につながった。

## (5) 展望

地域の子どもの居場所や保護者同士のつながりの場として活用されており、町内の飲食店への周遊やイベントの開催によるにぎわい創出が期待される。

調査をする委員会（南幌町）



## 6 委員会としての総括

南幌町の「はれっば」は、周辺住民にとってアクセスしやすい立地条件を生かし、子どもだけでなく地域住民全体が利用できる多機能複合施設として整備された施設である。悪天候や冬季においても子どもが安全に楽しく過ごせる空間が確保されており、親同士の交流も期待でき、子育て環境の充実につながっていた。また、同施設内にはカフェを併設したフリースペースがあり、町民の憩いの場となっていた。

南幌町は、この施設を「町民と共に「つくり」「育てる」まちづくりの拠点施設」と位置付けており、施設構想を実現するために、以下の点に重点を置いていた。

### (1) 住民参加の徹底

南幌町は施設整備事業の構想段階から、町づくり団体、商工会、子育てサークルなど地域団体への説明会やヒアリングを重ね、住民意見の聞き取りを実施している。町民は施設の利用者であると同時に、地域の担い手でもある。構想段階から町民が主体的に関わる仕掛けを作ることで、ニーズに合致した施設となり、完成後も愛着や利用意欲が高まる。

### (2) コンセプトの共有

「町民と共に「つくり」「育てる」まちづくりの拠点施設」という明確なコンセプトを共有することで、住民、行政、関係団体が同じ方向を目指し、一体感のあるまちづくりが可能となる。

南幌町のコンセプト実現のため、構想段階から町民と作り上げてきた施設であることが、施設完成後に多くの町民に利用されていることにつながっている。本町においても、住民参加、コンセプトの共有、仕組みづくりの重視など持続可能な施設運営体制を構築していくための手法を学ぶことができた。新嵐山スカイパークのランドデザインにある屋内遊戯施設の具体的なイメージを共有する機会となったことから今後の議論につなげていきたい。